



町のすがた

(6月1日現在)

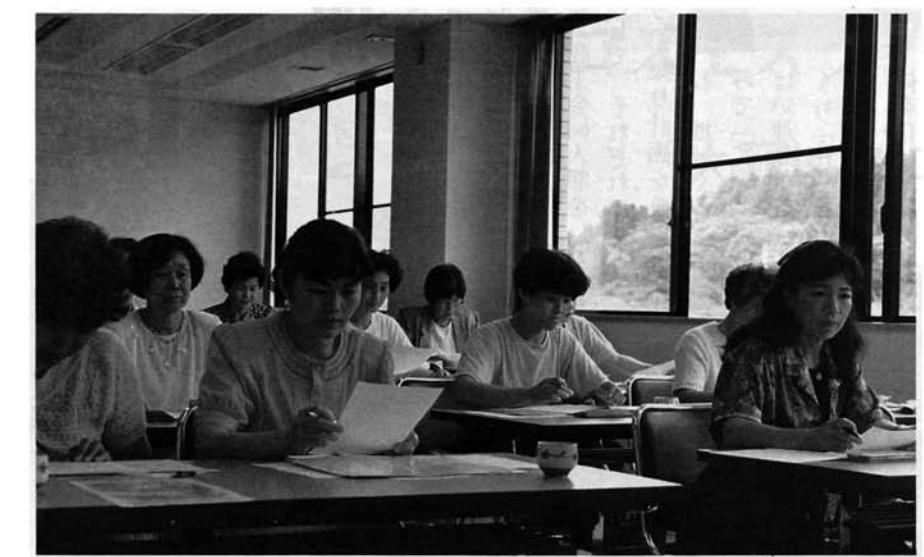
人口	男 3,324人 (+6)
	女 3,559人 (-4)
	計 6,883人 (+2)
世帯数	1,703 (0)
()	は6月1との比較



第256号

平成元年7月19日
発行 新潟県三島郡三島町役場
(0258) 42-2221
印刷 長岡市あかつき印刷

健康づくりは保健センターから



今日のメニューはさんまのカレーミニエル

保健センターで初の調理実習

新しい保健センターで初めての調理実習が行われました。この日実習したのは、町の保健委員のみなさんで、挑戦したメニューは、うす味とバランスをテーマにさんまのカレーミニエルなどです。「調理室がいいから、良くでき

ます。みんなの保健衛生のこどりについての良き相談相手でもあります。町民の健康づくり推進のためお手伝いいただく方で、活動をいただいております。



季節風

土用の丑の日にうなぎを食べると夏負けしないといわれ、この日はうなぎ屋の書き入れ時。「うなぎといえば、昔は夏のものだったが、最近は季節感がなくなった」とは、あるうなぎ屋さんの話。天然うなぎは冬はとれないが、最近は養殖輸入、冷凍技術の発達などで、一年中うなぎが食べられるというわけです。我が国で食べているうなぎの半分以上が、台湾、韓国、中国から輸入したもので、生きているのをそのまま運んでくる場合もありますが、蒲焼きにして冷凍したものが多いそうです。今年は七月二十八日が土用の丑の日です。暑い夏をのりきるためにうなぎの蒲焼といきたいものですね。

毎年、夏には各地で細菌性食中毒が多く発生します。そこで今年は三島郡からの食中毒発生○をめざし、「クリーンサマー三島」をテーマに郡内町村、食品衛生協会等の協力を得て夏の食中毒防止キャンペーンを開することになりました。

(一) 腸炎ビブリオ情報の発行
(二) 海産魚介類に付着し夏の代表的な食中毒菌である腸炎ビブリオの検査を行い関係者に情報を提供し注意を呼びかけます。

(三) 食中毒防止 ポスターの配付
保健衛生対策協会、食品衛生協会の協力により全世界にポスターを配付します。
(四) 巡回指導
保健所の食品衛生監視員と食品衛生協会の指導員で食品営業施設を巡回し現場指導を行います。

社会福祉事業推進のためにと次の方から心温まるご寄付をいただき、厚くお礼申し上げます。このご厚意は本人の意に添うかたちで住民福祉など

役場人事
採用 ■ 建設課主事補奈良事補小方和則
異動 ■ 企画調整課主事井村昭夫(産業課)
△退職 ■ 原田シヅ(住民課
主査)

夕映えに水脈のびきる薄暑かな栗の花雲に引かれてゆれにけり朝顔の苗を植ゑたり窓の下紫陽花や人それぞれの女人像

棟上げの桜の芽や松の芯洗ひ髪束ねず夜の庭に立つ梅雨晴や戸舎のチャイム聞き覚えあじさみの鮭鮮やかに風渡る梅雨ふかし夕餉の早き湯治宿一輪の薔薇の香りと眠りけり青梅雨や大正琴の揃ひ弾き

茄子苗を植ゑて新聞休刊日反論に傾きはじめビール注ぐ棚橋比呂志大滝著風

今月の納税

* 固定資産税	第二期分
* 国民年金保険料	七月分
* 水道使用料	六月分
* ガス料金	六月分

食品営業者はもちろん住民のみなさまからも御協力をお願いします。
○期間
七月一六日～九月一五日

四クリーンディの設定
七月二十日と八月十日を全食品営業者による一斉清掃日とします。
(五) キャラバンによるPR

金収益 (うち六十三年度一円玉募金二五、二一五円)
※例年婦人会事業計画で一円玉募金を行い福祉施設慰問を行っていましたが、本年度はできなくなり町社協にご寄付いただきました。

有意味に活用させていただきます。
上岩井 佐藤アキ 殿
一〇一、〇六五円
ヤンペーンギャルに併せ、キクリーンディに併せ、キヤンペーンによるPRをはじめ関係者により食品営業施設を廻り食中毒防止を呼びかけます。
さわやかりビング 推進運動
(新潟県長岡保健所)

俳句 文芸



広報みしま

(平成元年7月19日発行)

サルビアはシソ科の植物で、原産地はブラジル、ヨーロッパ、北アメリカです。今回植えたサルビアは、「ホットジャズ」という品種で草丈三〇～四〇センチでランター植栽用の品種で、夏から秋まで長い間、花が楽しめるので特に親しまれている草花です。

水やりは一日一回、毎日やれば良いという訳ではありません。根も呼吸していますから、水をやりすぎると、呼吸できずに根腐れをおこしてしまいます。

乾いたら水を与えて下さりません。

根も呼吸していますから、水をやりすぎると、呼吸できずに根腐れをおこしてしまいます。

ぐりーんすぱつと

サルビアの育て方

サルビア千本を植える

五月二十七日、雨あがりの青空の下で「花いっぱい運動」の作業が行われました。

この日作業参加したのは、商工会婦人部・商店会・青年部・農業後継者グループ・大字脇野町役員・老人クラブの三十余名、助成金で購入したプランターの大ささに一瞬戸惑いもありましたが、手ぎわよく千本のサルビアの植え込みを終え、大小百三十個余りのプランターが町の中心街に配置されました。



脇小四年生

コスモスラインを…

大野地区内にコスモス2000本

わたし
わたくし
秋になつたら
コスモスラインを
通学できるわ

夏の暑い日は、夕方に葉水を少しかけて、葉がしおれないようにします。

水やりの理想は、地温と水温が同じで午前中に与えることです。

夕方水をやると茎ばかりのびて形が悪くなります。

花が終つたら摘みとつて下さい。

次の花芽が何本かきます。

わきからまた芽がのびて、手入れをすることで、長く花を楽しむことができます。



地域のみなさん、どうか子供達の町を思う気持ちが実り、秋には見事なコスモスラインが楽しめるよう、そつと手をさしのべてやってください。

たりと世話をしています。

り、水やりをしたりと世話をしています。

その後も枯れた苗を取りかえた

「わたしたちの町を花いっぱいのきれいな町にしたい」と、脇野町小学校四年生の子供達が話し合って、大野地区の県道路肩四〇〇㍍にコスモスの苗を植えました。

七月四日、子供達が校庭の花壇で育てたコスモス、まだかわいい早苗ですが、路肩の草を取り道路の左右に一本一本ていねいに植えました。

「秋にはコスモスラインが出来るわ」。

子供達は秋のコスモスラインを夢みて、その後も枯れた苗を取りかえた

ました、「一本一本植えるのがとてもたいへんだったけど、いっしょうけんめいがんばって三十八本植えました」「土がかたくて、手にまめができる、皮がむけたけど……」と子供達はがんばって、一千本のコスモスを植えました。

「秋にはコスモスラインが出来るわ」。

（平成元年7月19日発行）

広報みしま

(平成元年7月19日発行)

花を咲かせよう

花は人々のコミュニケーションの媒体であるといわれています。

その花が町中いっぱいに咲いていれば、そこに住む人はもとより、町を訪れる人の心も……。

青空のもと、心なごむ花の町づくりをねらいとした「花いっぱい運動」がくりひろげられました。

三島町商工会婦人部では昨年から商工会・青年部の協力を得て「花いっぱい運動」にとりくみ八十個ものプランターを町に配置し、ペチニア・マリーゴールド・サルビアなど四季おりおりの花で町民を楽しませてくれました。

今年はさらに、活動の輪を広げようと、大字脇野町、地域老人クラブ、農業後継者グループの参加をえて、緑化推進コミュニティ事業として、自治宝くじの助成金百万円を受けて、大型プランター五十個にサルビア



ね、地域ぐるみで「花いっぱい運動」をくり広げるため、活動母体を花いっぱい会と定め各グループから代表者を出し、作業計画を組み、作業はすべて参加グループ会員の奉仕によって行われております。



広報みしま

—ノースカロライナから留学生が来町—
Mishima is very peaceful
(三島町はとても穏やかな町です)

—下河根川佐藤さん宅にホームステイ—

アメリカの留学生トーマス・マコターさん(十七才)が、七月六・七日の両日三島中学校を訪問しました。トーマスさんは英語の授業やバレーボール部の練習に参加し、三中生徒と楽しいひとときを過ごしました。トーマスさんは高校生交換留学制度により来日され、六月末から下河根川の佐藤亘さん宅にホームステイしています。約二か月間

長岡高校で学んだ後、八月末には県庁を訪れ金子知事のメッセージを持って帰国される予定です。

またこれとは別に、佐藤さんの長男高弘さんが八月七日、県を代表して約一年間のアメリカ留学へ出発されます。

「マスさんが役場へ来庁され、せっかくの機会でもあるから」ということで、中学校訪問の運びとなりました。

トーマスさんは三島町に



来庁した佐藤高弘さんとトーマスさん



ついての印象を聞いてみると、「東京へ着いた時は、人があまりにも多いので驚きましたが、三島町はとても落ち着いた感じのする町でよい町です。」と答えてくれました。また三中生徒についてでは、「知性的でいろいろなことをよく知っているうえ、英語もうまい。」という答えが帰ってきました。

町民のみなさんがもじトーマスさんの姿を見かけましたら、気楽に声を掛けたげてください。

(平成元年7月19日発行)

広報みしま

新庁舎での初議会となつた町議会第二回定例会が二十日召集され、会期は二日間と定め、各会計の補正予算など提出された議案はいずれも原案どおり可決されました。

負契約について

補正予算

◆平成元年度三島町下水道事業特別会計補正予算(第一号)について

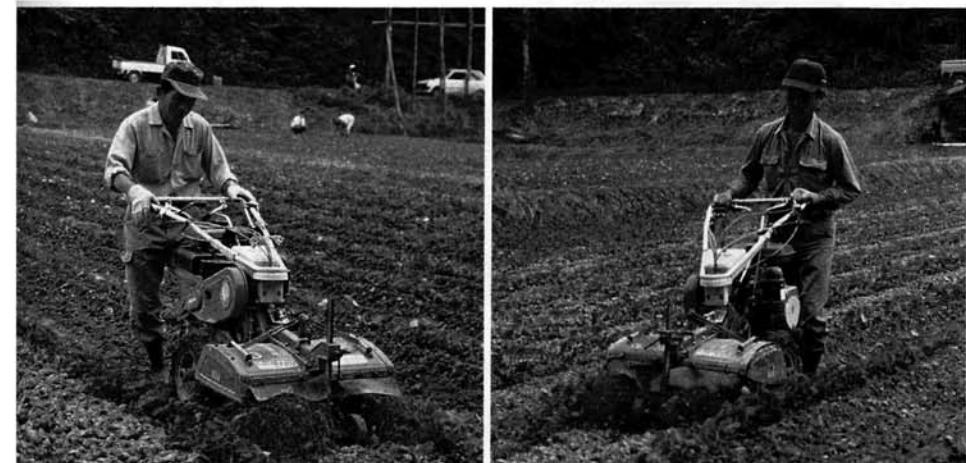
清
通

**人権擁護委員に
片野・松浦両氏再任**

高揚を図るために置かれて
いるものです。

新農構で整備

大豆転作にとりくむ 逆谷転作組合



町議会 第二回定例会

逆谷転作組合（三十二名代表斎藤功さん）では、水田農業確立対策として大豆作りに取り組まれています。面積は二・〇ha。圃場は新農業構造改善事業（三島西部地区）により暗渠排水が整備されました。

土地の有効利用と生産性の向上を目的に、六月より農協と連携しながら、施肥耕耘、播種、培土と秋のりっぱな実りをめざして、役員の皆さんとの作業が続きます。野うさぎ対策など困難もありますが、多収穫を期待しております。

